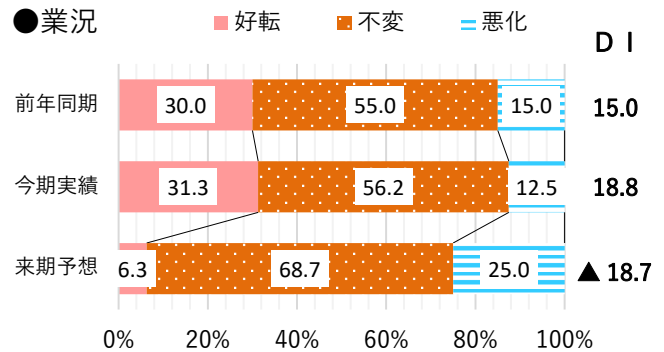


サービス業

業況、売上、採算

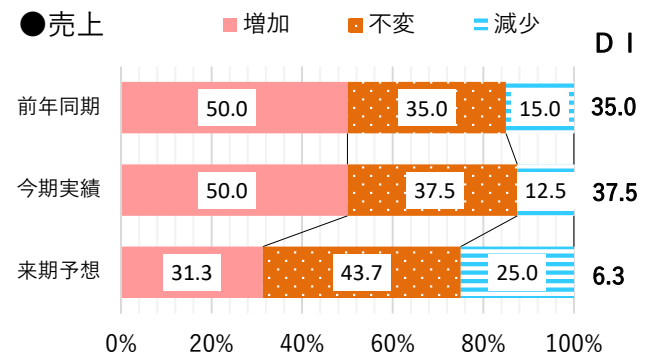
今期（2026.7～9）の業況DIは18.8で、前年同期（2025.7～9）と比べ3.8ポイント上昇しました。

来期（2026.10～12）の業況DIは▲18.7で、今期（2026.7～9）と比べ37.5ポイント低下すると予想しています。



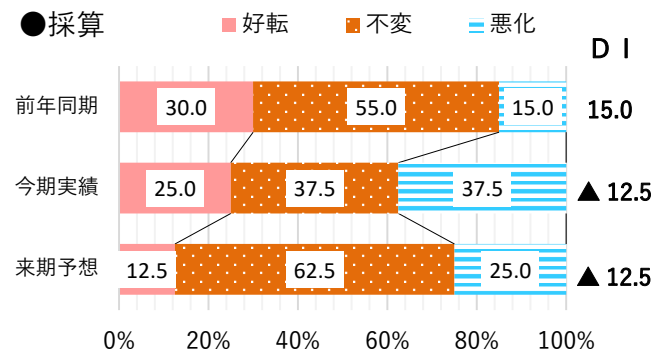
今期の売上DIは37.5で、前年同期と比べ2.5ポイント上昇しました。

来期の売上DIは6.3で、今期と比べ31.2ポイント低下すると予想しています。

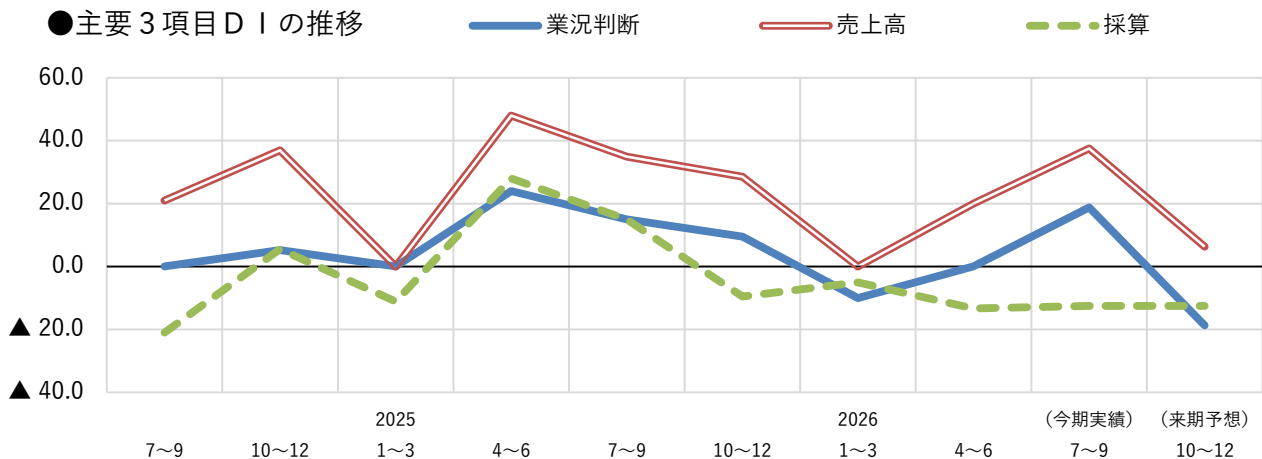


今期の採算DIは▲12.5で、前年同期と比べ27.5ポイント低下しました。

来期の採算DIは▲12.5で、今期と比べ変化なしと予想しています。



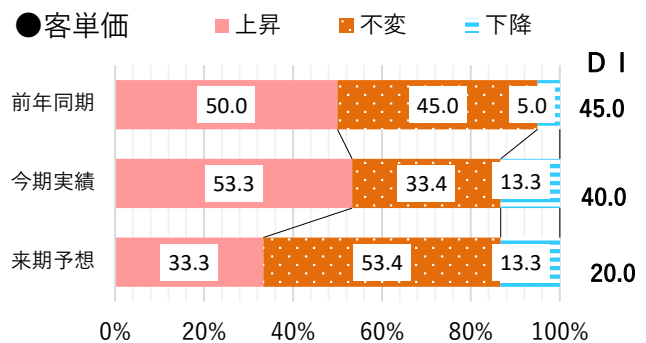
●主要3項目D Iの推移



客単価、利用客数、仕入単価

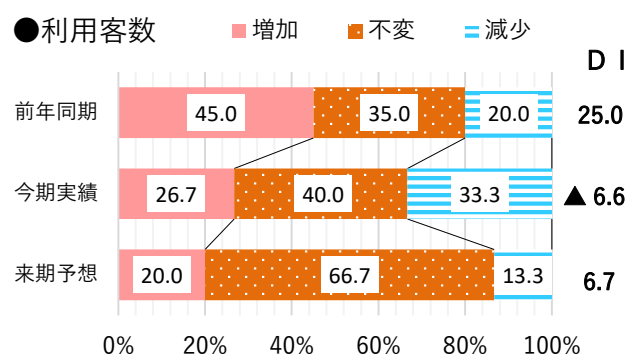
今期の客単価DIは40.0で、前年同期と比べ5.0ポイント低下しました。

来期の客単価DIは20.0で、今期と比べ20.0ポイント低下すると予想しています。



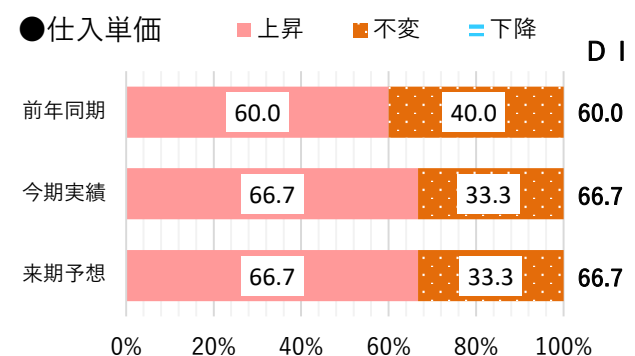
今期の利用客数DIは▲6.6で、前年同期と比べ31.6ポイントと大幅に低下しました。

来期の利用客数DIは6.7で、今期と比べ13.3ポイント上昇すると予想しています。



今期の仕入単価DIは66.7で、前年同期と比べ6.7ポイント上昇しました。

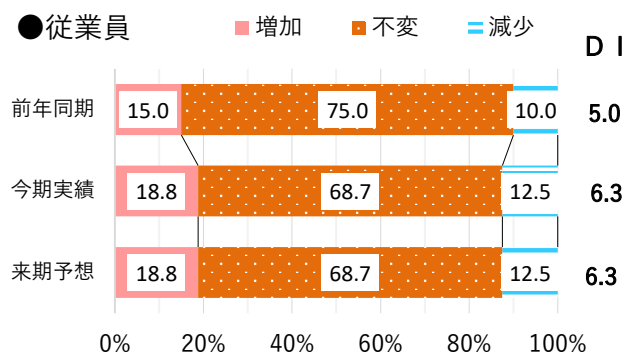
来期の仕入単価DIは66.7で、今期と比べ変化なしと予想しています。



従業員、今期の雇用状況

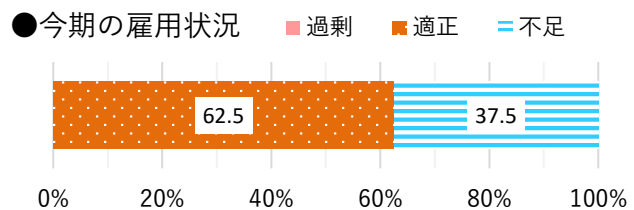
今期の従業員DIは6.3で、前年同期と比べ1.3ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは6.3で、今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は62.5%、不足していると回答した企業の割合は37.5%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、43.8%を占めました。



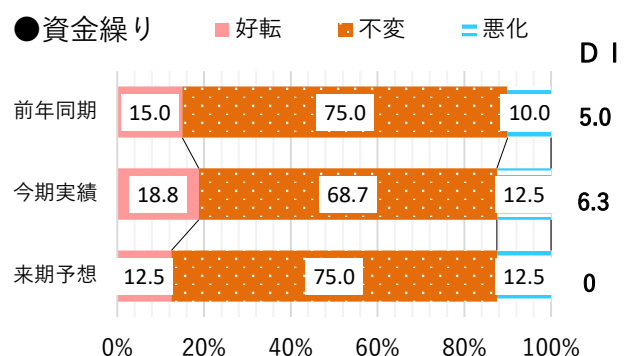
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	12.5%
	不足	6%
不変だった	過剰	0%
	適正	43.8%
	不足	25.0%
減少した	過剰	0%
	適正	6.3%
	不足	6.3%

※回答総数16社

資金繰り、設備投資

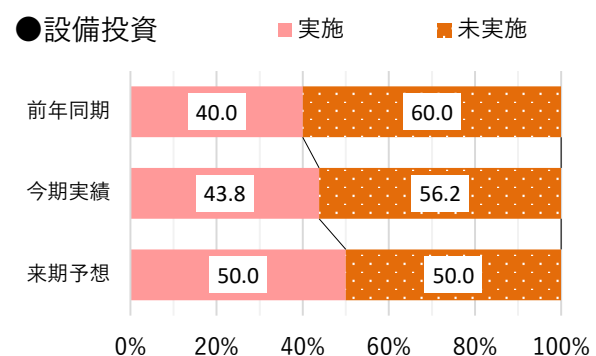
今期の資金繰りDIは6.3で、前年同期と比べ1.3ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは0で、今期と比べ6.3ポイント低下すると予想しています。



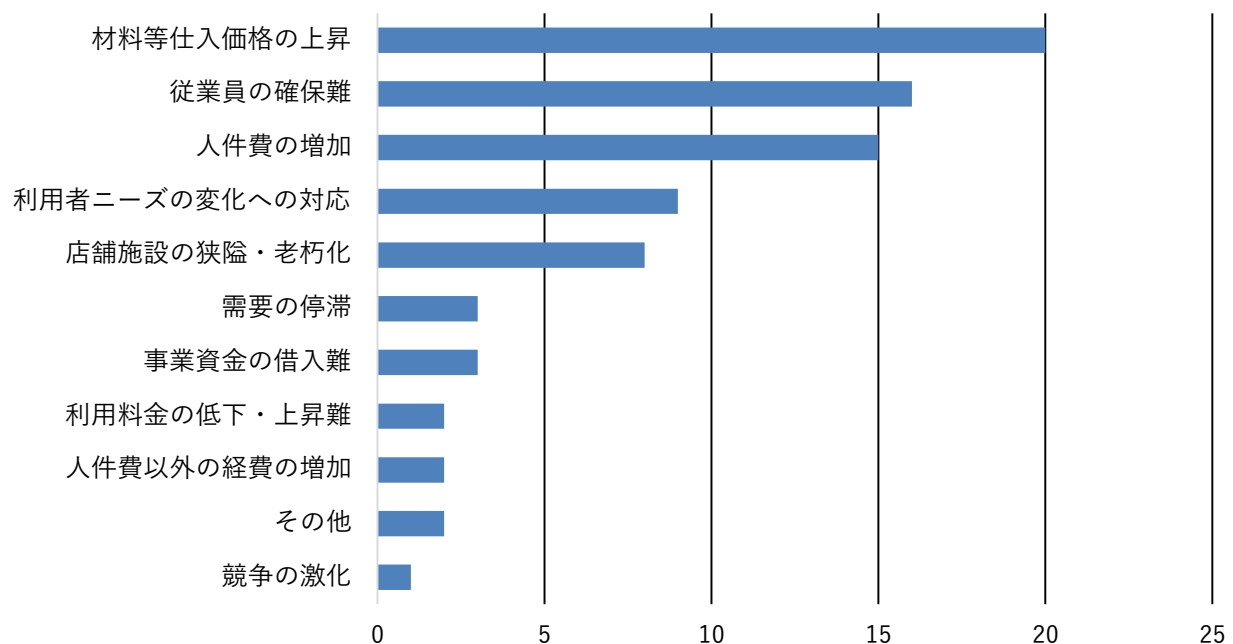
今期の設備投資は43.8%が実施と回答し、前年同期と比べ3.8%上昇しました。投資内容は、1位「車両運搬具」、2位が「サービス設備」「付帯施設」（同位）でした。

来期は50.0%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 夏の繁忙期で利用客数が多く売上は上昇したが、魚介類などの仕入値の増加で利益率はそれほどでもない。（飲食店）
- 第3四半期からの前倒しの収入増加により売上が増加した。（ビルメンテナンス）
- 売上額が減少し、仕入価格が毎月上昇しているので利益が出にくい状況である。（写真業）
- 売上は新規顧客の獲得及び値上げ効果もあり増加したが、病院や施設の統廃合があり、採算は不変であった。（各種物品賃貸業）
- 売上、仕入価格がともに増加した。また、AI導入により人材確保の必要性が減少した。（情報処理・提供サービス業）
- 客単価、利益率が向上したため業況が好転した。（情報処理・提供サービス業）
- 新規紹介客が多数いた事とおたるプレミアム付商品券の効果で売上が上昇したが、仕入価格の増加も止まらない。（美容業）
- 来場者数の増加に伴い売上が増加した。（スポーツ施設）

[来期の業況について]

- 第2四半期へ前倒しした収入の影響と最低賃金上昇の影響で売上が低下した。（ビルメンテナンス）
- 来期は年末なので年賀状の印刷で売上額が増加すると見込んでいる。（写真業）
- 売上は増加予定で、仕入価格は今期増加したので不変と予想する。（各種物品賃貸業）
- 仕入価格、最低賃金の増加の影響で業況の悪化を予想している。（廃棄物処理業）
- ものづくり補助金を用いた設備投資により対応可能な業務が増え、さらなる客単価の増加が見込む。（情報処理・提供サービス業）
- おたるプレミアム付商品券の使用期間がまだ残っていることに加え、年末は例年予約が埋まるため売上は増加すると予想している。（美容業）